

※会場は申込状況により変わります。

日時	No.	分科会名	会場 ※	内容	登壇者						
					役割	所属	氏名(敬称略)				
10月31日 (金) 15:00 ～ 16:30	A	名古屋における 自転車利用環境	大ホール (1階)	名古屋市を始めとした都市部における自転車利用環境向上施策の特色や課題を発信・共有し、各地において自転車まちづくりの一助とする。 ・名古屋市の都心部自転車対策の事例発信 放置自転車ワースト1脱却までの道のりなど ・自転車通行空間整備の課題 自転車通行空間のあり方(広い歩道の存在) ・実効性のある自転車通行空間	座長	NPO法人自転車活用推進研究会 事務局長 自転車利用環境向上会議全国委員会 幹事	内海 潤				
					パネラー	名古屋市 緑政土木局 路政部長	岩本 隆裕				
						国土交通省 中部地方整備局 名古屋国道事務所 事業対策官	井上 重人				
						大同大学 建築学部 教授	嶋田 喜昭				
						一般財団法人トヨタ・モビリティ基金 プログラム・ディレクター	八木 健一				
					コメンテーター	NPO法人自転車活用推進研究会 理事長 自転車利用環境向上会議全国委員会 副会長	小林 成基				
	B	向上会議開催都市の Before and After	第7集会室 (4階)	過去開催地から3都市を選び、開催当時の状況から現在に至る経緯、今後の課題を発表していただく。発表者は自転車利用環境向上会議の開催都市に関連したメンバーと、現在の市役所担当者のコンビで行う。 プレゼンが終わった後会場との質疑応答を行い、自転車利用環境向上会議が環境向上のきっかけになったこと、現在の課題から未開催都市の政策の参考にしていただき、将来の向上会議開催を検討していただくことも目的とする。	座長	岩手県立大学 名誉教授 自転車利用環境向上会議全国委員会 監事	元田 良孝				
					コーディネーター	茨城大学 名誉教授 自転車利用環境向上会議全国委員会 幹事	金 利昭				
					パネラー	一般社団法人しまなみジャパン 専務理事 自転車利用環境向上会議全国委員会 幹事	坂本 大蔵				
						愛媛県 観光スポーツ文化部 観光交流局長	藤原 康芳				
						元 堺市 建設局 サイクルシティ推進部 参事役 自転車利用環境向上会議全国委員会 幹事	貝塚 耕一				
						堺市 建設局 サイクルシティ推進部 自転車企画推進課長	増田 佳史				
						さいたま市 都市局 交通政策部長 自転車利用環境向上会議全国委員会 幹事	代田 智之				
						さいたま市 都市局 交通政策部 自転車まちづくり推進課長	岡井 利文				
					C	サイクルツーリズム ～まちと自転車の魅力発見へ～	4階ホール (4階)	サイクルツーリズムには、比較的長距離を“旅”として楽しむものから、ポタリングなど街をスローにめぐる楽しみまで多彩になってきている。インバウンドを顧客としたビジネスでもこうした「街の楽しみ」をコンテンツのカギとしている事例も見えてきている一方で、自転車を楽しむ市民層の拡大を目指した取り組みも各地でみられる。 今回の自転車利用環境向上会議では、自転車だからこそ発見できる街の魅力を楽しみ、ひいては自転車そのものの魅力発見につながるツーリズムについて、日本各地と台湾で取り組む事例を紹介し、楽しむ自転車の活用について、今後の展望を考えたい。	座長	株式会社アーチ・ヒーロー北海道 代表取締役	高橋 幸博
									パネラー	株式会社AWA-RE	榮 高志
	一般社団法人日本バラサイクリング連盟 いわき自転車文化発信・交流拠点ノレル? いわき時空散走	寺澤 亜彩加									
	いわき時空散走	陸奥 賢									
	NPO法人市民・自転車フォーラム	木村 雄二									
	湘南鵜沼海岸自転車部	対馬 伸也									
	Bike Fun Discovery	Sean Lu									

日時	No	分科会名	会場 ※	内容	登壇者		氏名(敬称略)
					役割	所属	
11月1日 (土) 9:00 ～ 10:30	D	交通の安全と教育 ～新しい流れ～	第7集会室 (4階)	「安全と教育」分科会は今年から地域での勉強会・交流セミナー(「輪講」)を始めた(これまで東京と堺市、京都市)。これにより年に3回の同様のセミナーが可能となる。今後はさまざまな地域からの発表を期待したい。 今回はテーマとして、①安全の取組みを進める上での「連携と協力」②「社会的包摂」の観点から、障がいを持った子どもたちへの自転車教育を含む「楽しく学ぶ」自転車教育を選んだ。この機会に、従来型の「ルール・マナー」だけでなく、「交通の安全と教育～新しい流れ」について、参加者と共に考えてみたい。他に、二つの事例発表を予定している。	座長	地球の友・金沢 代表 自転車利用環境向上会議全国委員会 監事	三国 千秋
					パネラー	京都市 建設局 自転車政策推進室	甘利 卓也
						京都府警察本部 交通部 交通企画課	石田 伸一郎
						一般社団法人市民自転車学校プロジェクト 代表理事	藤本 典昭
						ジャーナリスト・ノンフィクション作家	石井 勤
	コメンテーター	日本自転車文化協会 理事 自転車利用環境向上会議全国委員会 幹事	御子柴 慶治				
	E	実践！道路空間再構築 ～自転車通行空間はできている～	4階ホール (4階)	市街地において、既設の道路に自転車道又は自転車通行帯を整備するには、道路空間の再配分・再構築が必要となる。しかし、自動車交通への影響、緑石や植栽を移設する工事等を懸念し、着手に躊躇することが多い。 一方で、全国には道路空間再配分を進めている現場もあり、事例も複数出てきている。それら実践事例を紹介し、「再配分は可能だ！」と感じて頂く分科会を展開する。	座長	株式会社建設技術研究所 自転車利用環境向上会議全国委員会 幹事	大脇 鉄也
					パネラー	国土交通省 中部地方整備局 名古屋国道事務所長	神田 忠士
						今治市 建設部 建設政策局 道路課 課長補佐	秋山 洋司
					コメンテーター	国土交通省 道路局参事官(自転車活用推進)付 自転車活用推進官 (自転車活用推進本部事務局)	原田 洋平
	F	公共交通と自転車の連携 ～公共交通連携を次のステージへ～	大ホール (1階)	R5.5に国から「サイクルトレイン・サイクルバスの手引き」が発出されて以降、急速に全国でサイクルトレインを中心に実施が進んでいる。また近年、自転車と公共交通の結節点であるモビリティハブなども各地で検討が進んでいる。 一方でこれらの利用が伴わない、あるいは限定的である、思ったように利用が進まないなど課題も出てきている。 欧州ではR7.6に新たな鉄道に関する規則がEUより発出され、1列車に搭載する自転車台数等の制度が明確化されるとともに、ECFによるサイクルトレインの評価(ハード・ソフト両面)が行われているほか、ソフト面としてモビリティハブやモビリティチケットを含む整備が進むなど大きく変化している。 この分科会では日本でこのECFの評価と同様の評価をもしやってみたらどうなるか、また、公共交通連携の肝となる結節点の重要性、関係機関相互のコミュニケーションの必要性等についてフロアを交えた議論を進めることで課題解決の道筋を検討していく。	座長	株式会社ドーコン 東京支店事業部 自転車利用環境向上会議全国委員会 幹事	小美野 智紀
					パネラー	近畿日本鉄道株式会社 鉄道本部 名古屋統括部 運輸部 営業課 主幹	西邨 真由美
						九州産交バス株式会社 共同経営推進室 課長	今釜 卓哉
						鳥取県 輝く鳥取創造本部 観光交流局 観光戦略課 サイクルツーリズム振興室 課長補佐	中原 登
						湯沢町 企画産業観光部 企画観光課 観光商工係長	笛田 利広
東海大学 建築都市学部 准教授 自転車利用環境向上会議全国委員会 幹事						鈴木 美緒	
コメンテーター					国土交通省 道路局参事官(自転車活用推進) (自転車活用推進本部事務局次長)	土田 宏道	